

全校朝礼(放送)

- ・ 皆さん、おはようございます。現在、北京で冬季オリンピックが開催されています。中国と日本の時差は1時間ということですので、リアルタイムで大会を観れる機会も多いと思います。
- ・ 2 日前には、ジャンプ男子ノーマルヒルで小林陵侑選手が日本人今大会初の金メダルを獲得しました。1972年、ジャンプ男子70m 級(現在のノーマルヒル)で笠谷選手が金メダル、金野選手が銀メダル、青地選手が銅メダルを獲得からちょうど 50 年の 2 月 6 日でありました。
- ・ 私は、小学校 3 年生くらいでしたが、テレビにかじりついてジャンプ競技を観ていたことを思い出します。当時は、今のような V 字ジャンプではなく、板は平行にして、記録は 1 本目 84m・2 本目 79m と今とは 20m ほど飛距離も違いますが、当時はバッケンレコード(最長不倒距離)での金メダルでありました。
- ・ 当時の話が通じる先生も数名しかいませんが、たいへん興奮したことを覚えています。このような栄光をつかむまでには、様々な挫折や失敗、悔しい思い等を経験してきたことと思います。
- ・ 同じ日に女子モーグルで 5 位に入賞した川村あんり選手は 17 歳の高校生で、皆さんとあまり年齢は変わりません。ゼッケン番号 1 番のメダル候補の筆頭でありましたが残念ながらメダルの獲得はなりませんでした。
- ・ 決勝後のインタビューでは「ここまで支えてくれた人たちに感謝しかありません。メダルを取れず、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。寒い中、ありがとうございました。」という立派なコメントを残して会場を後にしました。
- ・ 川村選手は、きっとこの大会を経験してもっと強くなって、また次のオリンピックに帰ってくるんだろうと思いながらインタビューを聞いていました。
- ・ 前日の 2 月 5 日に同じモーグルで、銅メダルを獲得した堀島行真選手は、前回の平昌オリンピックで転倒した悔しさを胸に今大会で見事にメダルを獲得しています。
- ・ このオリンピックを観ていて、人間は『失敗と成功』、『栄光と挫折』を繰り返して成長していくものだと思えて感じました。
- ・ 3 年生の皆さんの多くは、今後、受験に挑戦することになります。全員無事に合格することを心から願っていますが、今から言うような考え方もあることを知っておけば少し気持ちも楽になると思います。昨年度も同じようなことを 3 年生には伝えました。
- ・ 「人間万事塞翁が馬」という中国の故事(昔から伝わっているお話やいわれ)があります。知っている人も当然多くいると思います。
- ・ この故事を簡単に説明すると、「昔、中国のある田舎で、老人が立派な馬と一緒に生活をしていましたが、ある時、馬が逃げてしまい老人はとても悲しみました。ところが数日が過ぎた時、逃げた馬が立派な馬を引き連れて帰ってきたので老人はたいへん喜びました」
- ・ 「しかし、ある時、老人の息子がその馬に乗っていると馬から落ちて足を骨折してしまい老人はとても心配しました。しばらくすると隣国と戦争が始まり、けがのおかげで息子を戦争に行かなくてすみませんでした」というお話です。
- ・ 長い人生において、何が幸せ(合格)で、何が不幸(不合格)なのかは予測しがたいということですが、これくらいの気持ちを持って受験に臨むことも必要かもしれません。3 年生の皆さん、間近に迫った入試頑張ってください。以上で私の話は終わります。